

教科	科目名	単位数	学年	学科またはコース	履修
農業	生物活用	2	3	3年オープン（進路B）	選択

(1) 科目のねらい、使用教材など

科目のねらい	園芸作業や社会動物の活用に必要な知識と技術を習得し、それらの生物の特性を活用した活動や療法について理解する。また、社会動物を通じて地域交流を図る。
使用教材など	生物活用（実教出版）

(2) 年間予定

期	月	時数	学 習 内 容	学 習 の ポ イ ン ト
一学期	4 5 6 7	24	○生物活用の意義と役割 ○動物の飼育と活用 ウサギ、ウマ 実習（小動物・馬の管理、畑の準備・管理、イベント参加）	・生物の福祉的、療法的な活用の意義や役割を理解する。 ・本校のウサギとウマは交流活動に活用するため、動物への適した接し方や、その説明ができるようにする。
二学期	8 9 10 11 12	30	○動物の飼育と活用 イヌ ○動物介在療法 ○園芸療法 ○園芸作物の栽培と活用 実習（小動物・馬の管理、畑の管理、イベント参加）	・イヌの活用の実際について理解する。 ・園芸療法の対象者（何らかの支援を必要とする人たち）を理解する。 ・各動物の活用の実際について理解する。（アニマルセラピー） ・園芸療法の活用や効果について考え、理解する。 ・園芸作物の基本的な栽培法を身につける。
三学期	1	4	生物活用の実際 実習（小動物の管理）	・交流活動の目的を理解する。 ・これまでの交流活動（イベント参加）を振り返る。

(3) 評価の観点

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：技能	d：知識・理解
観 点 の 趣 旨	管理作業や座学から動物に関する技術や知識を得ようとする	目的や場に応じて、仲間と相談しあいながら自分の考えをまとめ行動できる	目的や場に応じた適切な作業ができる。	小動物の管理作業をスムーズに行うことができる 生物活用に関する知識を身につけ、管理作業と結びつけることができる
主 た る 評 価 方 法	実習態度の観察 記述の点検 (プリント等)	実習態度の観察	実習態度の観察	実習態度の観察 記述の確認 (プリント・日誌等) 定期テスト

(4) 評価項目・評価点など

評価項目・学習にあたって・評価点		
①定期テスト	毎学期末に筆記テストを実施します。	60点
②ノート・プリント提出	毎時間の座学の記録をしっかりと書いているか点検します。	10点
③実習	興味・関心を持って実習に取り組んでいるかを評価します。	30点
授業を通して、小動物の管理や小動物を利用した活動を学びます。命の大切さを考えてみましょう。 動物の管理には危険が伴います。安全に作業を進めるために、実習の際には実習着の正しい着用と指示をしっかりと聞くことを徹底してください。		